



第77回広島県高等学校総合体育大会 バスケットボールの部

個人トータル表

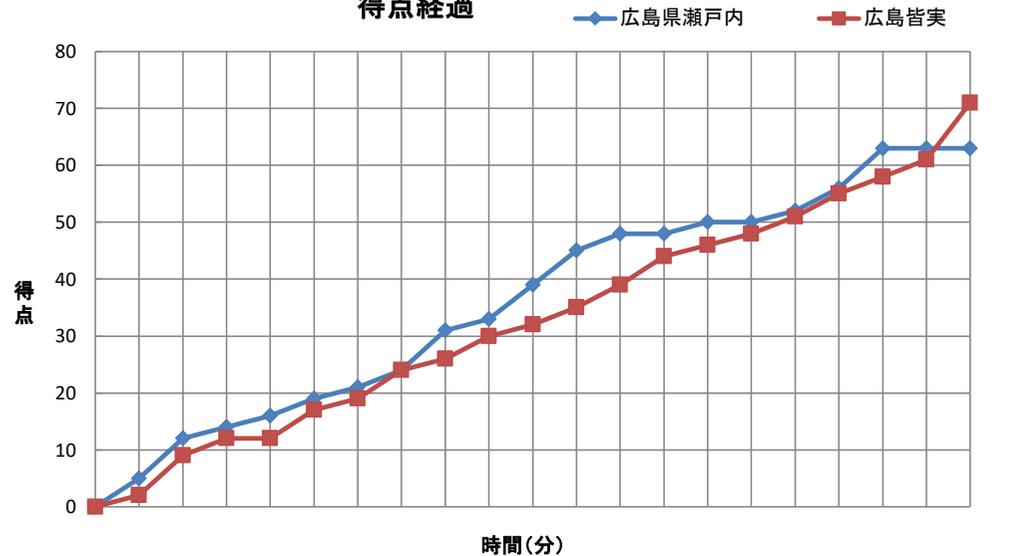
男子		令和6年6月2日	15:30 開始
決勝		府中市立総合体育館	0

広島県瀬戸内	63	<table border="1"> <tr><td>19</td><td>1st</td><td>17</td></tr> <tr><td>20</td><td>2nd</td><td>15</td></tr> <tr><td>11</td><td>3rd</td><td>16</td></tr> <tr><td>13</td><td>4th</td><td>23</td></tr> </table>	19	1st	17	20	2nd	15	11	3rd	16	13	4th	23	71	◎ 広島皆実
19	1st	17														
20	2nd	15														
11	3rd	16														
13	4th	23														
(広島県)			(広島県)													

番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則	番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則
2	若林 快 晟	-	-	-	-	-	* 4	石丸 陽 生	7	1	2	0	3
* 5	佐藤 雅 雅	9	0	4	1	2	* 5	平田 貴 一	15	3	3	0	0
12	長山 純 斗	0	0	0	0	0	6	西本 尚 史	0	0	0	0	3
* 19	坪川 喜 晴	2	0	1	0	1	7	松本 朔 太郎	13	2	3	1	3
20	高松 詩 空	-	-	-	-	-	* 8	松井 颯 之 輔	13	0	6	1	4
21	山中 篤	2	0	1	0	1	9	八木 隆 誠	-	-	-	-	-
22	三次 漣 待	0	0	0	0	0	10	奥秋 凛 之 介	-	-	-	-	-
23	室田 真 秀	3	0	1	1	2	11	谷本 寿 成	-	-	-	-	-
26	山下 大 貴	-	-	-	-	-	* 12	平田 成	9	1	3	0	2
29	米満 慶 哉	-	-	-	-	-	13	磯本 真 之 介	12	2	3	0	0
* 30	澤田 大 陸	12	2	2	2	0	14	坂西 優 友	0	0	0	0	2
31	上村 駿 太	-	-	-	-	-	15	渡邊 龍	-	-	-	-	-
* 34	三次 桜 侍	23	4	4	3	0	16	村上 礼	-	-	-	-	-
* 37	藤川 大 夢	12	1	3	3	1	* 17	川崎 拓 海	2	0	1	0	1
41	胡濱 隼 征	0	0	0	0	2	18	藤原 佑 貴	-	-	-	-	-
コーチ	川西 英 昭					0	コーチ	横田 学					0
Aコーチ	山崎 翔 太郎						Aコーチ	佐々井 雄 大					
合計		63	7	16	10	9	合計		71	9	21	2	18

主審: 市川雄介
副審: 熊本裕一朗
副審: 北川祐大

得点経過



CTO	1・2P	3・4P			OT1	OT2	OT3	OT4
TeamA	:	25:26	34:45	39:02	:	:	:	:
TeamB	18:52	35:38	:	:	:	:	:	:

〔戦評〕瀬戸内VS県立広島皆実 スタート 瀬戸内#5#19#30#34#37 県立広島皆実#4#5#8#12#17
 2024年広島県高校総体男子決勝は、初優勝を目指す瀬戸内高校と3連覇を目指す県立広島皆実高校の対戦となった。
 1Q 両チームマンツーマンDFでスタート。瀬戸内#19のドライブ、広島皆実#8のジャンプシュートがそれぞれ決まり幕開けとなる。瀬戸内は#30の3Pシュート、#34の3Pシュートが決まり勢いに乗る。対する広島皆実も#7のバスケットカウントやDFからの速攻で点差を縮めていく。お互いに激しいDFを繰り広げ、拮抗した展開が続く。瀬戸内#34の3Pシュートが終盤に決まり、19-17で瀬戸内がリードして1Qが終了する。
 2Q 序盤は、お互いに守り合いの時間が続き我慢の展開となる。広島皆実#13のジャンプシュートが決まるが、瀬戸内も#34を起点に攻め、リードを保つ。広島皆実も#7の3Pシュートが決まり残り6分で同点に追いつく。しかし、瀬戸内#30の3Pシュート、さらに瀬戸内#21のバスケットカウントが決まりリードを広げていく。その後、広島皆実も#4の連続得点で喰らいつく。広島皆実もタイムアウト明け 2-1-2のゾーンを繰り出す。瀬戸内#34の3Pシュートが決まり39-32で瀬戸内がリードして前半を折り返す。
 3Q 開始早々、瀬戸内#34の連続レイアップで点差を2桁とする。広島皆実も#7の3Pシュート、スティールからのレイアップで流れを引き戻す。さらに広島皆実#13の3Pシュートが決まり6点差となったところで、瀬戸内後半1回目のタイムアウト。タイムアウト明け、瀬戸内#5のリバウンドからのシュートを決め切り、主導権を渡さない。その後、前半から続けていたハードなディフェンスが徐々に功を奏した広島皆実も点差を2点差に縮め、50-48で3Qを終了する。
 4Q 瀬戸内#30のリバウンドシュートから最後の10分間が始まる。対する広島皆実も#5の3Pシュートで1点差とする。広島皆実#7のゴール下シュートで、残り7分遂に逆転する。しかし、すぐさま瀬戸内#34のバスケットカウント、スティールからのレイアップでリードを奪い返す。その後、瀬戸内#34の3Pシュート、瀬戸内#37のスティールからのレイアップで点差を徐々に広げていく。ここで広島皆実後半1回目のタイムアウト。タイムアウト明け、広島皆実#12の3Pシュート、#8のジャンプシュートが決まり再び点差を3点差とする。残り1:31で広島皆実#13のバックシュートで63-63の同点となる。さらに広島皆実#13が値千金の3Pシュートを決め63-66と勝ち越す。最後は広島皆実#5の勝負を決める3Pシュート、リバウンドからの速攻が決まり63-71で広島皆実が逆転勝利した。終始、瀬戸内ペースで試合が進んだが、勝負所での決定力の差が勝負を分けた。敗れた瀬戸内高校は#34を中心としたオフェンスと粘り強いディフェンスで素晴らしいゲームを繰り広げてくれ、非常に見応えのある好ゲームであった。
 勝利した広島皆実高校は、粘り強い激しいDFと持ち味の速攻で8月から福岡県で行われるインターハイでの活躍が楽しみである。

戦評: 原 未来斗 記録: